

徒然草から生きるヒントを貰おう

つれづれなるままに日くらし硯に向かひて、心にうつりゆくよしなし事をそこはかとなく書きつくれば・・・で始まる徒然草は誰もが知る古典文学ですが、序段の先の内容をじっくり味わったことはありましたか？

7月19日、“兼好法師の「人生の教師」とも言える言葉の数々に、朗読と解説を通して耳を傾けよう”という「徒然草を読む」講座が焼津市の小川公民館で開かれ、学生時代以降ほとんど触れることのなかった私も、今だからこそ学べる事も多いのかもしれない、と伺わせて頂きました。受講室いっぱいの参加者で、同じ思いで来た方も多いのかしら、と思いながら聴講が始まりました。

—「徒然草」の構成— (序段を含む全244段)

分類	内容	段数
1	人間としての生き方、身の処し方について述べたもの	35
2	無常について述べたもの	6
3	日常の態度や行動、人間としての営みについて述べたもの	35
4	人間の心・本能・本性・心理について述べたもの	7
5	友人、女、妻などについて述べたもの	5
6	仕度、調度、飼育する動物、庭の草木などについて述べたもの	9
7	専門について述べたもの	6
8	政治、読書、和歌、旅、音楽、言葉などについて述べたもの	15
9	自然について述べたもの	4
10	縁起を記したもの	43
11	奇聞・滑稽談を記したもの	18
12	有難放棄や知識に関して書き留めたもの	54
13	物語的な場面を描いたもの	4
14	思い出や自費を記したもの	3

徒然草

第1段	人間として望ましいこと
第2段	質素な生活
第3段	恋愛について
第4段	来世の極楽往生
第5段	流罪になつて眺める月
第6段	子孫は残さぬほうがよい
第7段	無常について
第8段	恋は人の心を惑わせるもの
第9段	女の髪がつやつやと美しいのは人目多引く
第10段	建物と庭が調和した住居が好ましい
第11段	京都の栗栖野(くるとのすの)へ行つた話
第12段	気の合う人について
第13段	古人が書いた書物はおもしろい
第14段	和歌の批評
第15段	旅は爽快である
第16段	神楽は優美である
第17段	仏に仕える気持ち
第18段	後約生活は大切
第19段	自然について
第20段	古い時代が懐かしい
第21段	
第22段	
第23段	
第24段	宮中の様子

徒然草

第115段	仇討ち
第116段	物に名前をつける時
第117段	悪友と善友の条件
第118段	魚や動物の話
第119段	人の才能について
第120段	貧・富・奢(おごり)とは
第121段	是法法師(ぜほうほうし)という人
第122段	狛犬に似た上人の説教
第123段	バクチについて
第124段	改めても無駄な時
第125段	生き物を哀れむ気持ち
第126段	人の心を苦しめることは醜いこと
第127段	身の程を知る
第128段	天皇について
第129段	宮中でのたわひもない出来事
第130段	花や月、樹木などを鑑賞する時
第131段	遺産を残すのは下品なこと
第132段	
第133段	
第134段	都の人と東国の人について
第135段	
第136段	
第137段	
第138段	
第139段	
第140段	
第141段	
第142段	
第143段	
第144段	
第145段	
第146段	
第147段	
第148段	
第149段	
第150段	
第151段	
第152段	
第153段	
第154段	
第155段	
第156段	
第157段	
第158段	
第159段	
第160段	
第161段	
第162段	
第163段	
第164段	
第165段	
第166段	
第167段	
第168段	
第169段	
第170段	
第171段	
第172段	
第173段	
第174段	
第175段	
第176段	
第177段	
第178段	
第179段	
第180段	
第181段	
第182段	
第183段	
第184段	
第185段	
第186段	
第187段	
第188段	
第189段	
第190段	
第191段	
第192段	
第193段	
第194段	
第195段	
第196段	
第197段	
第198段	
第199段	
第200段	
第201段	
第202段	
第203段	
第204段	
第205段	
第206段	
第207段	
第208段	
第209段	
第210段	
第211段	
第212段	
第213段	
第214段	
第215段	
第216段	
第217段	
第218段	
第219段	
第220段	
第221段	
第222段	
第223段	
第224段	
第225段	
第226段	
第227段	
第228段	
第229段	
第230段	
第231段	
第232段	
第233段	
第234段	
第235段	
第236段	
第237段	
第238段	
第239段	
第240段	
第241段	
第242段	
第243段	
第244段	

徒然草

徒然草の構成一覧(講座資料より)

第245段	狐は人に食ひつくものだ
第246段	頼りの飾り物が派手なのは見苦しい
第247段	亡き者を祈る
第248段	内大臣藤原基家(もといたえ)の呼び名
第249段	自宅の庭に食料や産草を植えよ
第250段	白拍子(しらびょうし)の起源
第251段	「平家物語」の作者について
第252段	念仏について
第253段	上手な職人は鈍い刀を使う
第254段	化け損なつた未熟な氣
第255段	調度 率直な言い方がよい
第256段	遠矢は人を見くびるところから起る
第257段	物を奪はれた時の返事のしかた
第258段	心が空っぽだとつまらない雑念が入る
第259段	背中合わせに立つ獅子と狛犬
第260段	物の置き方
第261段	自我自賢(ごご)カネ
第262段	月を牽しむ雲指(うらうしゆく)の夜
第263段	流風の立つような夜は思ひ出せるものだ
第264段	万事を捨て仏道に向かう無常の境地
第265段	人間の3つの欲望は名譽・色欲・食欲
第266段	8歳の時に父と交わした言語

徒然草

つれづれなるままに・・・という通り、思うことをあれこれ書き留めた随筆であることをご存知の通りですが、この一覧を見ると、どんな内容で構成されているのかが一目でわかり、各段の内容一つ一つが興味深く感じられます。思わず読んでみたくなりませんか？



徒然草



徒然草

古典文学というと、つい遠ざけたいくなる方もいると思いますが、昔の教科書のような訳や解説だけでなく、とても読みやすい様々な現代語訳の本が出ています。

講師をされた土橋通先生は、今回浜松市出身の嵐山光三郎さんの訳を多く紹介して下さいました。「かげの声」という形で解説がされ、より内容が身近に感じられます。橋本治さんの「絵本徒然草」は、週刊誌に「マドギワ語訳・徒然草」として掲載したものに、手を入れ直してまとめたもので、漫画の挿し絵入りです。他にも書店や図書館で見ると、沢山の現代語訳本がありますので、自分に馴染むものを探したり、あれこれ読み比べて表現の違いを楽しむのも面白いと思いました。



徒然草

先生が抜粋したものを読んでくださった中で、私の印象に残ったのが59段と140段です。

59段は、「大事なことを成し遂げようと思ったら、今心に引っかかっていることがあり、それが中途半端であったとしても、雑事はすべて捨ててしまうべきです。これを済ませてから・・・あれをちゃんとしておかないと他人に笑われてしまうから・・・時間は掛からないのだからこれを終わらせるまで慌てることはない・・・などと考えている内に、雑事はどんどん増えていき、結局何もできずに一生を終わってしまう人が多い。火事で逃げる人は暫く待ってみようなどとは言わず、命が大事となれば何を差し置いても逃げる。命は限りあるものだから、人の気持ちを待ってはくれないよ。」というものです。しないことの言い訳ばかりで本当にしたい事を何もせず終わってしまうのは虚しい・・・確かにそうです。

そして140段は、「死んだ後に財産を残す様なことを、賢い人はしない。つまらないものを蓄えておくのも見苦しいし、価値のあるものなら、それに執着していたのだらうと思われて情けない。何より遺品が多いのは傍迷惑だ。私が貰おう、などという人たちがいて、死後に争っているのはみっともない。死後に譲ろうと思う物があるなら、生きている内に譲っておくべきだ。普段必要な物はあってもよいが、それ以外の物は何も持たずにいたいものだ。」というもの。物が溢れる現代の「終活」と同じような事を、700年も前に提言していたのですね。時代は変わっても行き着く考えは変わらない・・・ようです。

今は新しい情報を次々取り込むことに、疲れさえ感じてしまう程ですが、今を生きる私達にも通じる考えがあちこちに見られる「徒然草」を紐ときながら、生きるヒントを貰う・・・という時間を過ごすのも、ゆったりとした味わいがあるといいですね。いかがでしょうか。

志田榛北地区担当生きがい特派員 増田昌江